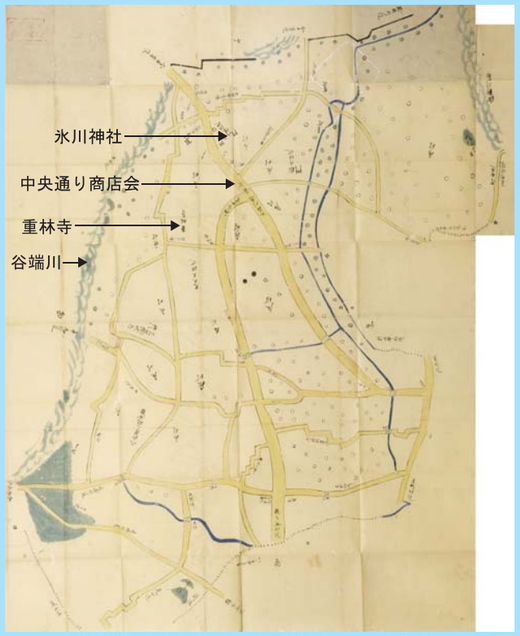
移り変わる池袋本町

―池袋本町いまむかし①―

まち

7月23日に区民ひろば池袋本町で、豊島区立郷土資料館の学芸員 秋山伸一氏による「池袋本町いまむかし」という講演会が行われました。とても興味深い内容でしたので、何回かに分けてお知らせします。



池袋村絵図（東京都公文書館所蔵）　※北を上に配置

現在の池袋本町は、江戸時代には池袋村と新田堀之内村とでなっていました。池袋村は現在の池袋、西池袋まで含む広い村で、新田堀之内村は北池袋駅の周辺と上池袋三・四丁目の一部が入る村でした。その後、明治22年に市町村制の施行により北豊島郡巣鴨村、その後西巣鴨町となり、昭和7年に長崎町・高田町・巣鴨町・西巣鴨町の４つの町が合併して豊島区となりました。

江戸時代の「新編武蔵風土記稿」によれば、池袋村には原（はら）、本村（ほんむら）、上（かみ）の３つの小名があったと記載されています。この中の本村が今の池袋本町の原型となっていました。池袋村の戸数は129戸、のどかな農村風景が広がっていたのでしょうか。村の中心となる通りは江戸大塚より板橋に続く道で、幅は三間（約5.4ｍ）とされています。これが今の中央通り商店会の道です。その後、昭和20年4月13日の城北大空襲を経て、池袋本町地域は都市化の一途をたどります。

電車の見える公園の石拾い

まもる

池袋本町電車の見える公園で放射性物質が発見されてびっくりしました。複合遊具の下にラジウムが埋められていたとのことです。なぜラジウムが埋められたかは謎のままですが、ラジウムを取り去ったところ、通常の放射線の値に戻ったため、豊島区では安全宣言を出しました。

この騒ぎを見聞きして、改めてまちの安全性について考えさせられました。今回のような予期せぬ事態に遭遇した時には、あわてず、正しい情報を得ることが必要になります。今回は流言やデマはなかったと思いますが、より混乱した事態になると悪意はなくとも人を惑わせるうわさが一人歩きをすることがよくあります。そういうことに惑わされないように、正しい情報源は何かについて考えておくことが必要ではないでしょうか。

さて、放射能騒ぎが起きる前に、新しいまちづくりの会では公園を使ったイベントを企画していました。その目的の一つははらっぱに散乱する石を拾うことです。この石は公園ができる前に建っていた清掃車庫のガレキが土の中に残っているものです。これまで新しいまちづくりの会では清掃パトロールの際に石を拾ってきました。しかし、石は雨が降ると土の中から出てくるようで、なかなかなくなりません。子ども達がはらっぱを安心して駆け回ることができるようにと、今回の石拾いイベントの開催となりました。

この石については、工事を行った豊島区の責任で取るべきだという意見も寄せられています。確かにそういう見方もあるかもしれません。しかし、新しいまちづくりの会では、この公園を自分達の公園としてより多くの皆さんに親しんでもらいたいと考えています。普段から使いなれた場所が災害時にも人々の拠りどころになると思うからです。そのために楽しみながら石をみんなで拾うというイベントを企画しました。このイベントは、子ども達を石から守るという意味と同時に、地域の拠りどころをつくるという思いが込められています。

池袋本町
まちづくりニュース
Ikebukuro Honcho Machizukuri News
No.59
2015年９月発行

発行：池袋本町新しいまちづくりの会
http:// 池袋本町 .net
豊島区都市整備部地域まちづくり課
問い合わせ先：
tel　03－3981－1464
fax　03－3980－5135
編集協力：防災アンド都市づくり計画室

防災ひろば用地（2000㎡）の利用

池袋本町一丁目の池袋本町公園の隣にある防災ひろば用地（2000㎡）は、防災まちづくりの一環として、平成11年に JR職員住宅跡地を購入した敷地です。その北側の4000㎡のひろば用地と合わせて、地区の防災の拠点とする計画が立てられていました。その後、4000㎡は学校の再配置計画によって小中連携校の敷地に組み込まれ、現在工事が行われています。2000㎡のひろば用地は、その敷地の一部を利用して新しいまちづくりの会が提案した防災通り１号線の先行整備が行われました。しかし広場部分は本町公園で行われるイベントの際に利用されるだけです。

このたび、豊島区ではこの敷地を活用して高齢者施設ができないかを地元に打診しています。これは、池袋一丁目にある特別養護老人ホーム「養浩荘」が老朽化により建替えの必要に迫られており、さまざまな制約から同じ敷地での建替えが困難なため、立地が可能な敷地を探した結果、2000㎡のひろば用地ではどうかとの提案です。

新しいまちづくりの会では、特別養護老人施設が区内で不足している事情はわかるものの、これまで防災に利用するために確保してきた敷地なので、もう少し丁寧な説明が欲しいと要望しています。9月の会合で、行政と福祉法人、設計者を交えて、この敷地を地区全体の防災性の向上に役立てるようにしてほしい、施設は防災的な利用ができるようにしてほしい、これまでの整備内容を引き継いだ計画にしてほしいなど要望について協議を行っています。

区では、新しいまちづくりの会での意見・検討設けて計画案を作成し、地域のみなさまに説明会等を行う予定とのことです。

２つの駅と駅周辺について協議開始

地区を横切る２つの都市計画道路は、どちらも北池袋駅、下板橋駅の近くを通ります。道路は鉄道の下を通る計画となっており、道路ができた時には、歩行者の通行、通学路、商店街、防災活動など駅周辺の環境に大きな影響を与えます。

新しいまちづくりの会では駅周辺のまちづくりについての協議を開始しました。今の駅や駅周辺が抱える問題点を解消し、地区にとってよりよい整備ができないかを検討しています。検討の結果は、豊島区が進めるまちづくり施策に反映していただけるよう伝えていくと共に、東京都や鉄道事業者へも要望していきたいと思います。

参加者募集中

●新しいまちづくりの会では、参加者を募集しています。お気軽にご参加ください。
●会議の日程やご参加については事務局までお問い合わせください。
事務局：豊島区地域まちづくり課
電話：03-3981-1464
Eメール：
A0022706@city.toshima.lg.jp

つれづれに一言

池袋本町二丁目　野坂　朗

私が池袋本町を離れて二十年、戻ってきてから間もなく十五年が経ちます。時代と共に変わっていかなければならない部分が沢山感じられます。特に都市計画道路、新たに特養の建設計画など、それらは必要な計画だと思います。災害に対する安全対策、目前に迫る高齢化社会…。

しかし、これらの事業によって、地域住民が生活し辛くなったり、安全が脅かされてはならないと思いますし、計画に押し流されてはいけないと思います。

特養に関して言えば、六十人規模で足りるのか、この場所が本当に適切な場所なのか、まだまだ検討の余地があると思います。

より住みやすく温かみがあり、長く住み続けられる池袋本町に変貌して行くために、私たちは色々な角度から行政に提案していかなければならないと思います。